

1. 私は比較的恵まれたよい環境の家庭における一般の親子関係の傾向を把握し、親の態度が子供に及ぼす影響をも調べてみたいと思った。

2. 品川氏著田研式親子関係診断テスト用紙を用い、広島市内の某私立女子中学校の1年生約100名について実態調査を行ない、親の態度の診断と、子供の問題兆候を親側と子供側の両面から検討した。

3. 親の望ましくない10タイプのうち特に得点パーセンタイルが準危険地帯にあるものは親側の評価では消極的拒否型(45)と不一致型(48)とがあり、子供側の評価では不一致型(38)と支配厳格型(41)と消極的拒否型(48)とがあった。その他は50以上をしめし普通でまず全体的にいい状態である。

一方、子供の問題兆候としては、一番多く目立つのは神経質、神経的習慣、神経病的徴候である。親の拒否的態度、両親の態度の不一致、不安的態度の影響とみられる。次に反抗、すねるの項目も多く指摘されているが、これは子供より親の方がやや強調しており、ひっこみ思案、忍耐力欠如、非協調、規則を守らない等の項目は親子ともこれを認め、劣等感(学業の劣等感も含む)、反省過剰、罪悪感等については、子供側の自己評価の方が親の評価よりも多く6倍の数にのぼっている。